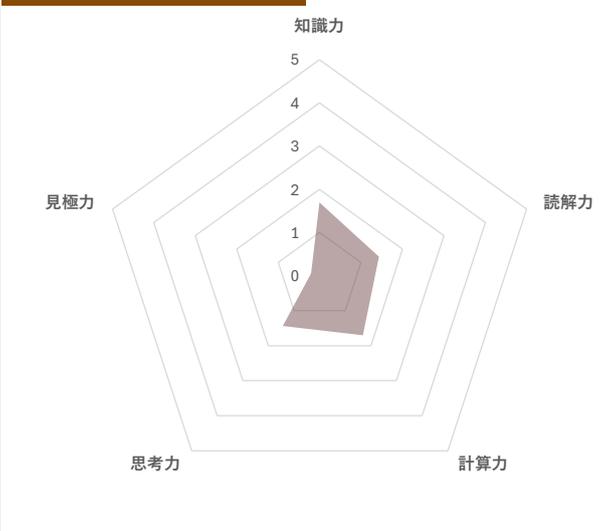


総合分析

試験区分 一般 (前期)

制限時間 75分 (理科2科150分) 大問数 全2問

合格に要する能力 (5段階)



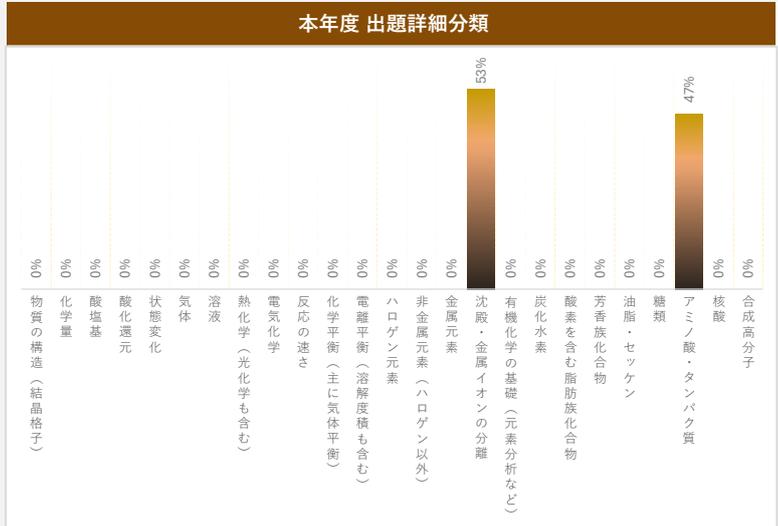
出題分野	
理論	0%
無機	53%
有機	47%

本年度出題テーマ一覧	
第1問	金属イオンの分離
第2問	アミノ酸

本年度 解答形式
答えのみ記述 100%

合格に要する能力 (5段階)

知識力	1.5	物質, 反応, 解法の知識
読解力	1.2	問題文から必要な情報を抽出できるか
計算力	1.5	手際よく正確に計算できるか
思考力	1.2	基礎知識や問題文から推測する力
見極力	0.0	解きやすい問題を選択する力



特殊問題の有無 数値計算あり グラフなし 正誤問題あり 理由記述あり 図表なし

特記事項 特になし

総合評価

難度	1.2	最難を5とする問題自体の難度	易しい	一次合格に必要な正答率 (予想)	87%
分量	40分	完答に要する時間 (制限時間は75分)	少ない	極めて高い正答率を要する	

入試の特徴と対策

- ▶ 設問ごとにテーマが一貫しており, 目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。
- ▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。
- ▶ 概ね公式の運用に関する出題である。日々の演習量が重要となる。
- ▶ 解法が誘導的に与えられる傾向がある。基礎に重点を置いた学習が要となる。

入試から見る 大学が求める学生像

昨年度と比較して易化した。教科書をしっかりと読み、標準的な問題演習を重ねてきた受験生であれば、ほとんど手が止まる問題はなかったのではないだろうか。行数指定の現象説明問題が例年多く出題されるが、本年度では1題だけであった。計算問題も1題だけであり、解答時間にもかなり余裕がある構成である。